

Title	阪大法学 59巻 3・4号 巻頭の辞
Author(s)	中尾, 敏光
Citation	阪大法学. 59(3,4)
Issue Date	2009-11-30
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55065
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

巻頭の辞

尹 景徹 先生は、平成二十一年三月三十一日をもってたく定年を迎えられ、大阪大学大学院法学研究科教授をご退職になりました。先生の業績を讃え、深い感謝と惜別の念を込めて、ここに阪大法学特集号を刊行し、先生に捧げます。

尹 景徹 先生は、昭和四十七年二月韓国外国語大学政経部中国語科を卒業し、同年九月台湾国立政治大学大学院東亜研究所修士課程に進学、同五十年六月同課程を修了、同五十三年四月より京都大学大学院法学研究科修士課程に進学、同五十五年四月同博士課程に進学、同五十八年三月同課程を研究指導認定退学後、同六十二年五月同課程を修了された。この間、同五十八年四月から同五十九年三月まで京都大学法学部助手に採用されている。その後同六十二年二月に母国韓国の韓国精神文化研究院付属大学院助教に就任、平成三年四月同副教授、同六年四月鈴鹿国際大学国際学部教授を経て、同十三年四月に大阪大学大学院法学研究科教授となりました。

先生の研究活動は東アジアの国際政治における韓国政治の位置を日本政治との比較においてはかるところにあり、その代表的研究である『日本学生運動研究』および『日本新左翼の研究』は、戦後日本の新左翼運動の歴史的総括を、その闘争過程、闘争理論、それに対する日本国民の反応を中心に分析したものであり、左翼運動全体が日本的な保守的思想によって沈静化させられていく姿を冷静かつ客観的な目で考察し、この分野の研究水準を大きく引き上げたものであります。そのうえで先生は『新左翼運動の国際的比較と韓国学生運動研究』において、日本の左翼運動の盛衰が韓国の学生運動にもたらす示唆をさまざまな角度から提示し、その比較政治の手法は注目すべきものであります。

また、先生の研究関心は東アジアの国際政治そのものの史的分析にありました。その成果は戦後東アジア国際政治の構造を決定づけた朝鮮戦争を中心に、激動する韓国政治史を達意の日本語で描いた『分断後の韓国政治』において示されており、この書物はこの分野のスタンダードとなる大部の歴史書として評価されています。

先生の比較政治研究はその卓越した語学力（韓国語、中国語、日本語、英語）と東アジア国際政治の該博な知識に基づいており、先生はその希有の能力を活かして、韓国言論界での活躍などを通じて日韓友好にも貢献されました。

さらに、先生は国際学術交流の分野でも大きく貢献されました。とくに大阪大学法学部が学術交流協定をもつ韓国の釜山大学校、嶺南大学校との交流、そして自身も交流協定の締結にかかわった韓国の建国大学校との交流などにご尽力されてきました。

先生の学部講義は専門的知識はもとより、自身の外国生活体験あるいは戦争体験などをふまえて、学生が断片的知識よりも世界を先入観なしに把握するために必要な開かれた目をもてるように教育する、というところにその特色があります。この先生教育方針はゼミにも活かされ、海外ゼミ旅行などを活用して、学生の国際政治理解が進むよう努力されてきました。そのため、学生に最も人気のあるゼミの一つでもありました。

限られた紙面で先生の業績を讃え、お人柄を語り、我々の深い感謝と惜別の念を表し、巻頭の辞に代えさせていただきます。先生がこれからも益々ご壮健にて、ご活躍されますことを心よりお祈りいたします。

平成二十一年十一月

大阪大学大学院法学研究科長
大阪大学法学部長

中尾 敏 充